

## 金曜日の会 報告

- 1 期 日 7月10日
- 2 場 所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O, A R, A K, Y O
- 4 内 容

- ・世界でいちばんやかましい音 映像(A R, A K)
- ・風切るつばさ 映像(Y O)

教師は、教材の言葉と言葉との関係やつながりをつかんでおくことが大切です。これは、問題作りにも言えることで、つながりを考えながら進めなくてはなりません。一つ一つがよい問題でも、つながりが見えなければ追求になっていかないということです。王子様が手をたたくことに『伝える』目的があるのかないのか。ない(喜ぶ)とすれば指差しと合いません。目的はあり、指差すことと関係があると考えれば、今度は指差した理由や相手の有無が問題になります。更に、指差した理由を考える時に、『小鳥～』『木の葉～』『小川～』で問題作りをし、奥に踏み込んでいくのです。『木の葉～』で言えば、風は強いのか弱いのか、そよぐを手がかりにしてこれを解決する中で『そよぐとゆれる』のちがいを考えるとといった展開が考えられます。ここでは、最終的に『小川を～』を考えることで、普通聞き取れない音のよさを知った王子様が、『落ち着き』まで知る所へつながっていくのだと思います。

また、教師が細部までいねいに関係を考えた解釈を持って授業に臨めば、子どもの意見が見え、少しゆとりを持つことができることも分かりました。そして、その姿を見た子どもたちも、教師に頼もしさを感じて安心できるのです。2本の映像から、貴重な学びをいただきました。

風切るつばさでは、20段落の『これ』が何を指すのかを考えました。前の2行を3つに分けて、選択肢にしましたが、ここに無理がありました。①風を切るつばさの音②こちよいリズム③体いっぱいひびきわたった→②と③で一つと考え、①が②にならないと、『わたれるぞ』には、なりません。また、18段落から19段落への変化も、きちんと読んでおく必要がありました。更に驚いたのは、21段落の『一緒に』が二人でなのか(最後の)むれとなのか、という問題です。後者は思ってもみなかったので、授業で聞いてみたくなりました。まだまだ、深いです。リトライしようと思います。(Y O)